

## 西部地区

### 地 勢

赤穂市西部の一角を占め、岡山県と接する地域で、折方、鷓和、福浦がそれにあたる。福浦はかつて岡山県に属していた。

江戸時代に大規模な干拓が行われるまでは海が深く入り込んだ入江地形を呈し、特に福浦は「九艘泊」、「大泊」、「船隠」といった地名からも船の停泊する津としての役割をもっていたと考えられる。江戸時代になると干拓によって塩田や水田が整備され、現在のような平地が続く地形となった。

なお福浦一帯の山々では、赤穂市全体を覆う「赤穂コールドロン」の痕跡がよく視認できる。

### 歴 史

現在のところ、西部地区に古代遺跡はほとんど見つかっておらず、古墳が散見されるのみであるが、今後の詳細分布調査が待たれよう。

中世になると、折方、鷓和には貝塚が見つかったほか、福浦は宇喜多氏領有の頃に干拓が進み、寺院も建てられていたという。江戸時代になると、福浦では岡山藩津田永忠による第1次、干拓が寛永元（1624）年、第2次干拓が天和2（1682）年にそれぞれ行われ、福浦新田村が生まれた。折方については、浅野長直が行った戸島新田の干拓によって広大な水田が出現したほか、西浜塩田の一角を形成して赤穂塩田を支えた。鷓和は、近代になって耕地整理や藤原新田の開発が行われ、耕地が整備された。なお、鷓和の地名は明治9（1876）年に真木村と鳥撫村が合併する際、それぞれの頭字をとって「鷓」とし、「和」を付して名付けたものである。

福浦は昭和38（1963）年に岡山県日生町より越県合併、赤穂市となった。

表20 西部地区 年表

時 代	年 代	で き ご と
古墳時代後期	6世紀後半～7世紀	天神山古墳で横穴式石室が築かれる
中 世	承平7(937)年	寒河・福浦の二村を「新田新庄」と呼んだ（和妙抄）
	永和2(1376)年 文明5(1473)年	法光院、寺山（岡山県）から福浦へ移転 法光院、浄土真宗法光寺に改宗
近 世	この頃	各地区に貝塚が築かれる
	大永元(1521)年	織方村に浄専寺、真木村に一向宗道場が開基
	天正10(1582)年	羽柴秀吉、中国征伐のため赤穂を通過、鳥打峠より福浦を経て伊部へ
	慶長8(1600)年	福浦、小早川秀秋の支配地となる
	慶長11(1603)年	福浦、池田領となり版籍奉還まで続く
	慶長10(1605)年	八幡宮を銭戸より尾崎村に移す
	元和元(1615)年	福浦入江の本格的な干拓はじまる
	寛永元(1624)年	干拓前の福浦は港の機能を果たしていた（船隠、九艘泊、大泊などの地名）
	寛永6(1629)年	福浦の第一次干拓
	天和2(1682)年	福浦の古土手及び水門が完成
近 代	宝永6(1703)年	福浦の第二次干拓によって福浦新田の干拓が完成、福浦新田村が成立
	宝暦元(1756)年	織方村、鳥撫村、真木村明細帳
	天明6(1786)年	恵照院建立
	享和元(1801)年	銭島の干拓始まる
	文政4(1823)年	福浦村・寒河村の百姓、古池周辺に塩田干拓を岡山藩に願い出る
	明治8(1873)年	福浦村に新開塩田ができる
	明治9(1876)年	福浦本村と福浦新田合併、福浦村となる
	明治11(1878)年	鳥撫・真木村が合併し鷓和村となる
	明治11(1878)年	福浦村の漁業始まる
	明治22(1889)年	市制・町村制施行による合併で塩屋以西がすべて塩屋村となる
現 代	大正2(1913)年	福浦村、寒河と合併して福河村と改称
	大正5(1916)年	鷓和の耕地整理完了する
	大正8(1919)年	塩野製薬所が鷓和村戸島に岩井製薬所を設立
	昭和19(1944)年	藤原新田の干拓完了
	昭和19(1944)年	藤原新田に海水が入り込み、使用不能となる
	昭和22(1947)年	藤原新田が流下式塩田となる
	昭和28(1953)年	福浦港防潮堤が施工される
	昭和29(1954)年	古池塩田で流下式による製塩が行われる
	昭和30(1955)年	国鉄赤穂線、赤穂一日生間開通。福河村は日生町と合併、日生町となる
	昭和37(1962)年	入電池の水門改修。国鉄赤穂線全線開通
昭和38(1963)年	福浦地区が赤穂市に編入。	
昭和38(1963)年	鷓和に国鉄の無人駅「天和駅」開設	
昭和42(1967)年	国道250号線開通	
昭和43(1968)年	上水道完成	
昭和45(1970)年	兵庫、岡山の海の境界線調印	
現 代	昭和46(1971)年	銭島の塩田が工場用地として買収される
	昭和50(1975)年	古池塩田廃止
	昭和52(1977)年	福浦、ほ場整備事業認可申請
	昭和58(1983)年	福浦漁港完成
	昭和58(1983)年	古池港完成